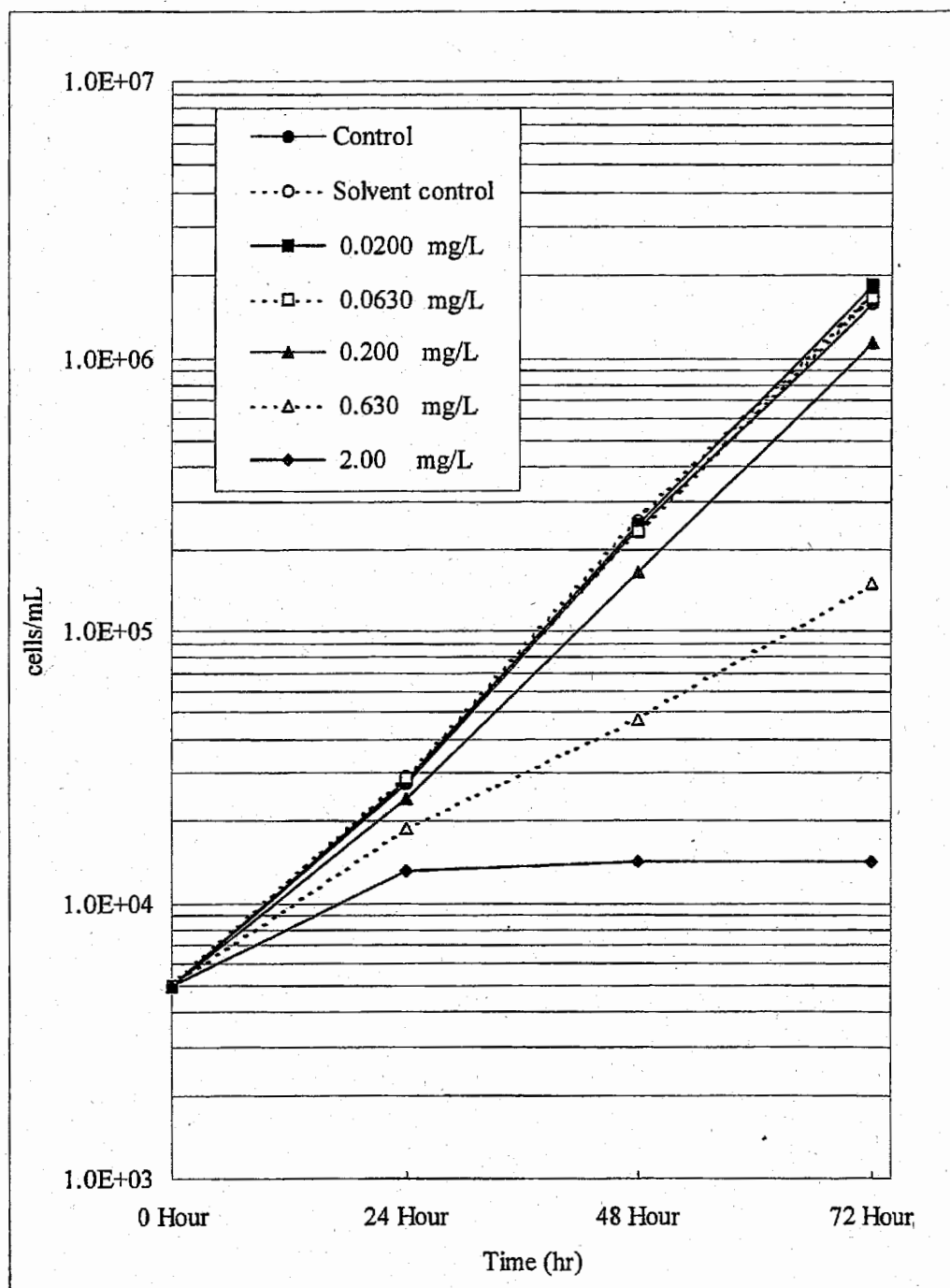


Figure 1 Algal Growth Curve of *Pseudokirchneriella subcapitata*
(Mean cell counts vs time during the 72-hour exposure)



Values in legend are given in the nominal concentration.

Figure 2

Concentration-Inhibition Curve Based on I_μ values Calculated from the Growth Rates

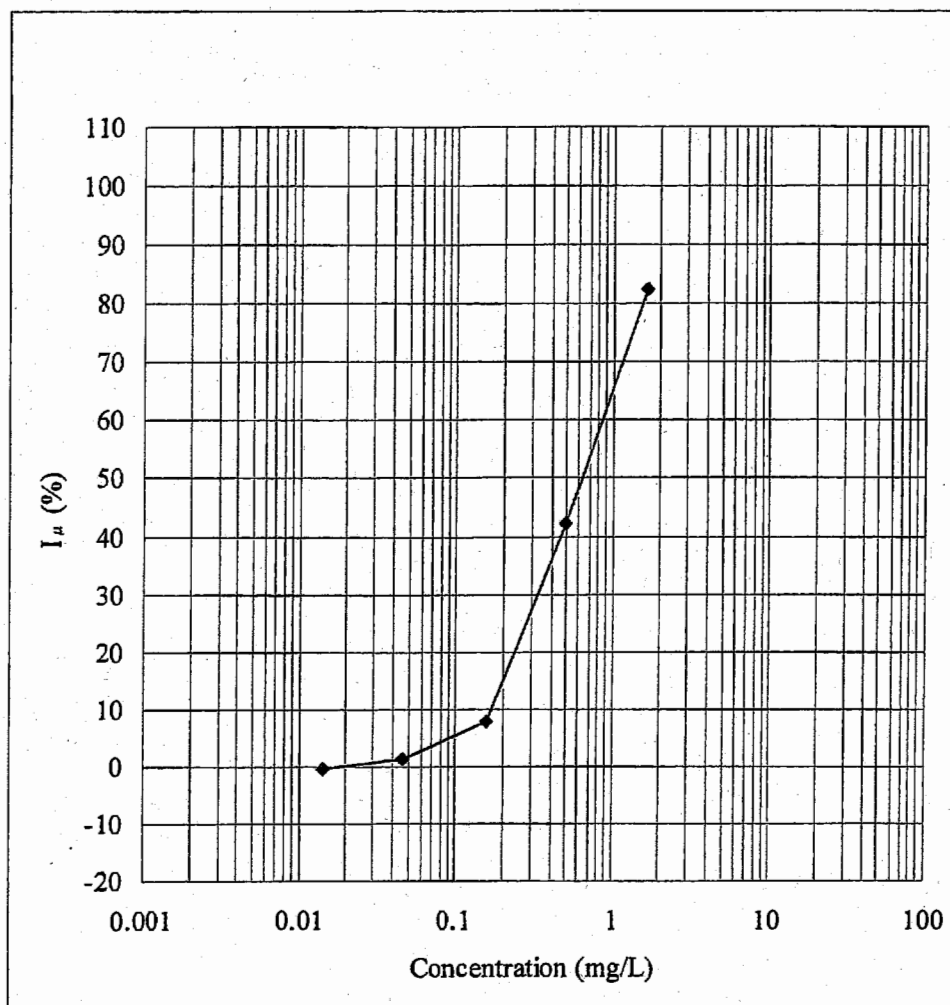
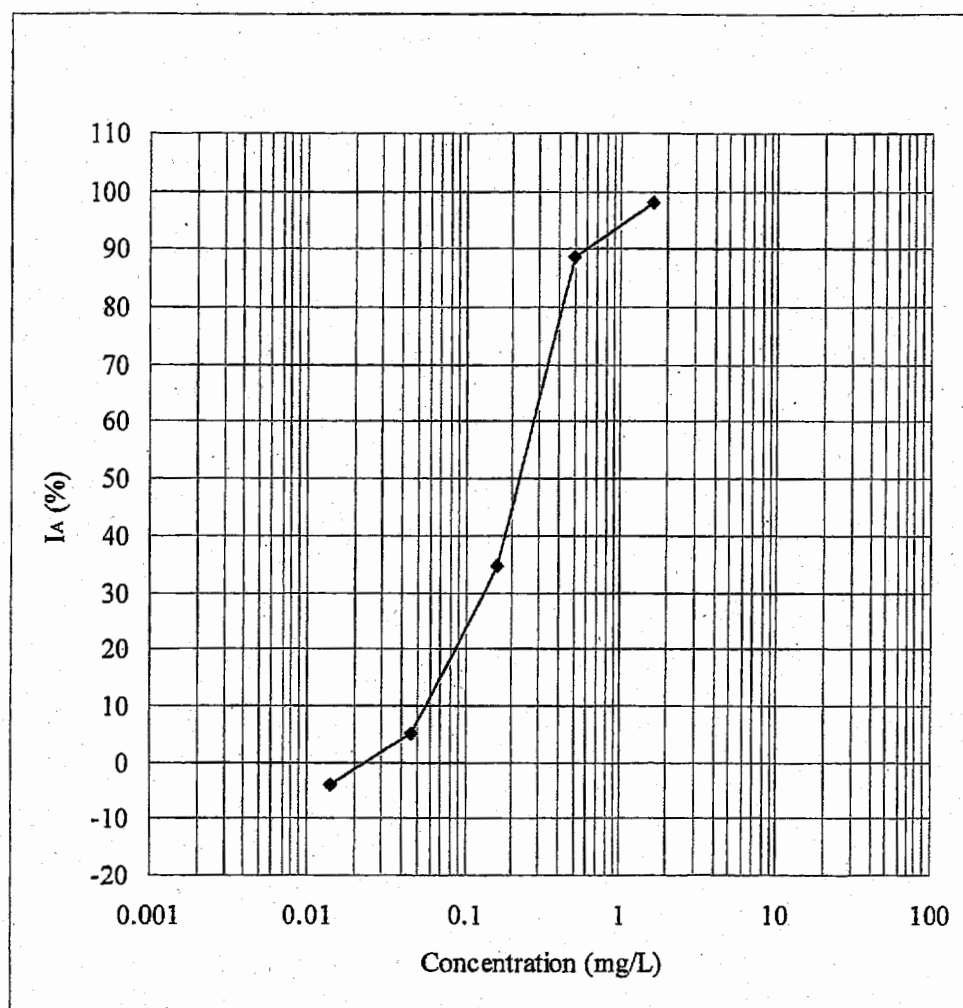


Figure 3

Concentration-Inhibition Curve Based on I_A Values Calculated from the Area under the Growth Curves



要 約

試験委託者

環境省

表題

ジブロモクレジルグリシジルエーテルのオオミジンコ (*Daphnia magna*) に対する
急性遊泳阻害試験

試験番号

A040539

試験方法

本試験は、「新規化学物質等に係る試験の方法について<藻類生長阻害試験, ミジンコ急性遊泳阻害試験及び魚類急性毒性試験>」(薬食発第1121002号, 平成15・11・13製局第2号, 環保企発第031121002号, 2003)に準拠して実施した。

- 1) 暴露方式: 止水式
- 2) 暴露期間: 48時間
- 3) 試験濃度(設定値): 対照区, 助剤対照区, 0.40, 0.60, 0.90, 1.30, 2.00 mg/L
公比 1.5
助剤濃度一定: N,N-ジメチルホルムアミド 98 µL/L
- 4) 試験液量: 100 mL/容器
- 5) 連数: 4 容器/試験区
- 6) 供試生物数: 20頭/試験区 (5頭/容器)
- 7) 試験温度: 20±1 °C
- 8) 照明: 室内光, 16時間明 (800 lux 以下) / 8時間暗
- 9) 分析方法: 高速液体クロマトグラフィー質量分析 (LC/MS)

結 果

1) 試験液中の被験物質濃度

分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、試験液調製時において 92～95%、その 48時間後において 84～85%であった。

2) 24 時間暴露後の結果

半数遊泳阻害濃度 (EC50) : > 1.76 mg/L (95%信頼区間 : 算出不可)

0%阻害最高濃度 : 1.15 mg/L

100%阻害最低濃度 : > 1.76 mg/L

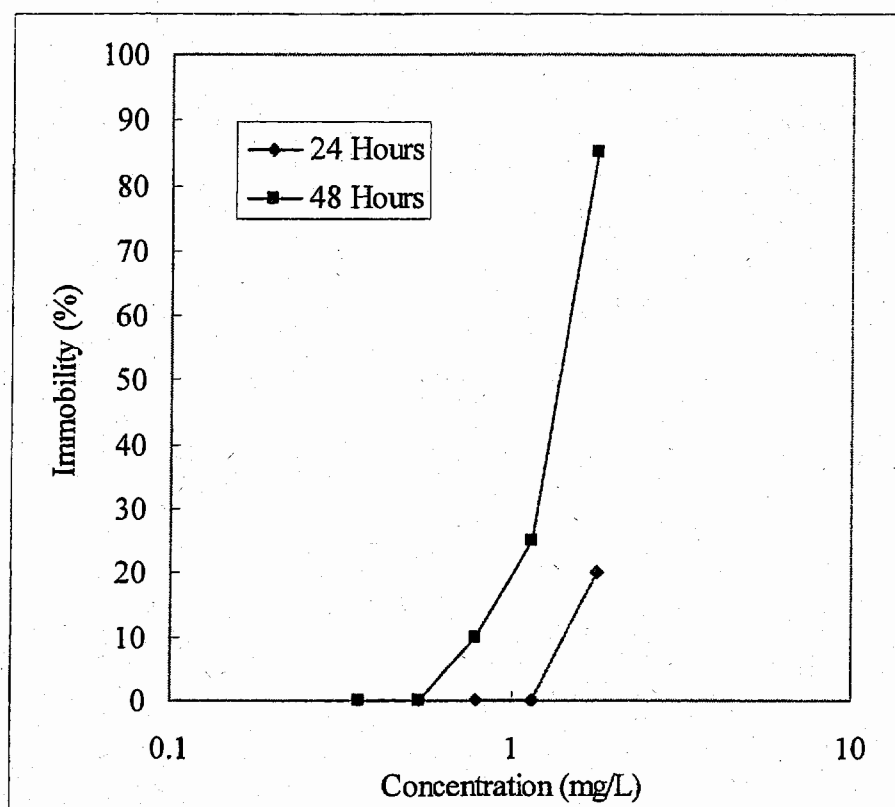
3) 48 時間暴露後の結果

半数遊泳阻害濃度 (EC50) : 1.32 mg/L (95%信頼区間 : 1.16～1.53 mg/L)

0%阻害最高濃度 : 0.54 mg/L

100%阻害最低濃度 : > 1.76 mg/L

Figure 1 Concentration-Immobiity Curve



要 約

試験委託者

環境省

表 題

ジブロモクレジルグリシジルエーテルのヒメダカ (*Oryzias latipes*) に対する急性毒性試験

試験番号

A040540

試験方法

本試験は「新規化学物質等に係る試験の方法について<藻類生長阻害試験, ミジンコ急性遊泳阻害試験及び魚類急性毒性試験>」(薬食発第1121002号, 平成15・11・13製局第2号, 環保企発第031121002号, 2003) に準拠して実施した。

- 1) 暴露方式 : 半止水式 (24時間毎に試験液の全量を交換)
水面をテフロンシートで被覆
- 2) 暴露期間 : 96時間
- 3) 試験濃度 : 対照区, 助剤対照区, 0.200, 0.400, 0.800, 1.60, 3.20 mg/L
(設定値) 公比: 2.0
助剤濃度一定: 97 μ L/L (N,N-ジメチルホルムアミド 使用)
- 4) 試験液量 : 5.0 L/容器
- 5) 連 数 : 1 容器/試験区
- 6) 供試生物数 : 10尾/試験区
- 7) 試験温度 : 24 $\pm$ 1 $^{\circ}$ C
- 8) 照 明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) / 8時間暗
- 9) 分 析 法 : 高速液体クロマトグラフィー質量分析 (LC/MS)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

試験液の分析の結果、測定値の設定値に対する割合は、試験液調製時において86～93%、24時間後において65～83%であった。予備検討において、生物を入れない試験液より、生物を入れた試験液のほうが濃度減少が顕著であった。したがって、濃度減少の主な原因はヒメダカへの移行によるものと考えられる。

2) 96時間暴露後の半数致死濃度(LC50) : 1.28 mg/L (95%信頼区間 : 0.63 ~ 2.63 mg/L)

3) 96時間暴露後の0%死亡最高濃度 : 0.63 mg/L

4) 96時間暴露後の100%死亡最低濃度 : 2.63 mg/L

Figure 1 Concentration-Mortality Curve

